

12 心臓血管外科・呼吸器外科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

- ・プログラムの対象：心臓血管外科・呼吸器外科は、外科後期研修であり、2年間の初期研修を終えたものを対象とする。研修期間は原則3年間である。

心臓血管外科の対象疾患は、主として4つに分類される。後天性心疾患（弁膜症，冠動脈疾患）、先天性心疾患、大血管疾患（腹部大動脈瘤を含む）、末梢血管疾患であり、これらの疾患の診断と治療に関する基礎知識と技術の研修修練を行う。

呼吸器外科の対象疾患は肺ガン、縦隔腫瘍などの腫瘍と、気胸などの機能障害である。これら診断治療に関する基礎知識と技術の研修修練を行う。

2. 研修内容と到達目標

基本的に研修はベッドサイド研修である。卒後の年数に応じた外科処置や指導医のもとで手術を行う。

術前・術後管理主体的に取り組むことにより、手技の習得ばかりでなく、医師としての重要な責任感をはぐくむ。

1年目	気胸や末梢血管疾患を中心に臨床研修を行う。
2年目	肺ガン、縦隔腫瘍、腹部大動脈瘤を中心に臨床研修を行う。
3年目	心疾患・大動脈疾患を含め総合的臨床研修を行う。

- ・年数とは関係なく心臓血管外科手術後や呼吸器外科手術後の全身管理の研修も行う。
- ・手術適応外の症例に対しての管理を行うこともある。

3. その他

- ・外科専門医を目指す場合、外科、小児外科とをローテートすることで取得可能である。
- ・心臓血管外科専門医、呼吸器外科専門医はさらに研修が必要である。